

研究課題名	ブルガダ症候群における心電図の成因および心室性不整脈発生機序に関するCT, MRIを用いた検討 多施設共同 後ろ向き 観察研究
研究機関名	武蔵野赤十字病院、国立病院機構災害医療センター、東京医科歯科大学、さいたま赤十字病院、土浦協同病院、横須賀共済病院、亀田総合病院、横浜みなと赤十字病院、横浜南共済病院
研究責任者	所属 国立病院機構災害医療センター 氏名 佐々木毅 武蔵野赤十字病院 氏名 永田恭敏
研究期間	(西暦) 倫理委員会承認後 ～ 2022年 6月
研究の意義・目的	ブルガダ症候群は、特徴的心電図を有し、致死性の心室性不整脈を認める。近年カテーテルアブレーションが有効であるという報告が多くなされており、右室流出路領域の異常心筋組織が治療のターゲットとされている。しかしながら、その成因については明らかではなく、心電図変化との関係も十分に証明されていない。 本研究では、ブルガダ症候群と診断された患者さんで、心臓CT、MRIを施行した際の画像データを解析し、成因および心室性不整脈発症リスクと画像所見の関連を明らかにすることを目的として検討を行う。
研究の方法 (対象期間含む)	対象 1999年1月1日から2020年12月31日までにブルガダ症候群の診断にて植込み型除細動器の植込みが施行、またはブルガダ症候群における心室性不整脈リスク評価のために電気生理学的検査が行われたブルガダ症候群患者。 方法 本研究は多施設における共同観察研究として実施される。 本研究のための情報は診療録から採集する。
①試料・情報の利用 目的及び利用方法 (匿名加工する場合や 他機関へ提供される場 合はその方法含む) ②利用し、又は提供する 試料・情報の項目 ③利用する者の範囲 ④試料・情報の管理 について責任を有す る者の氏名又は名称	①収集された診療情報は、匿名化(名前・IDなどを削除)した上で、武蔵野赤十字病院内から持ち出し禁止のパソコンに保存される。また、得られたデータ等を研究事務局等の関連機関に送付する場合は匿名化番号を使用し、研究対象者の個人情報that院外に漏れないように配慮する。 ②調査項目 (1) 患者背景: 性別、年齢、身長、体重、内服薬、基礎疾患、合併症、既往症、薬物治療 (2) 心電図、加算平均心電図: 遅延電位の有無など (3) 心臓超音波検査: 左室駆出率、左室拡張末期径など (4) 血液検査データ (5) カテーテルアブレーション: 心外膜遅延伝導部位、通電部位など (6) 電気生理検査、薬剤負荷(サンリズム負荷) 試験 (7) 心臓CT画像、心臓MRI画像: 画像解析ソフト(Ziosoft, OsiriX) 使用 ③利用する者の範囲 研究事務局並びに、共同研究機関 ④責任者 永田 恭敏
問合せ先	当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 循環器科 氏名 永田 恭敏 TEL : 0422-32-3111 (代表) 6812 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525